

## 令和6年度 第2回大月みらい協議会 会議概要

日 時：令和6年7月25日（木）18時00分～20時15分

場 所：大月市立大月短期大学 L号館1階 会議室

出席委員：白川恵子、白川太、中島啓介、竹下文仁、山口隆太郎（敬称略）

事務局：杉本課長、上條地域活性化担当リーダー、石丸主事、福嶋主事補

### 1 開会（司会：杉本課長）

### 2 市長あいさつ（大月市長 小林信保）

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

前回会議におきまして私から提案させていただきましたとおり、第3期総合戦略を策定するにあたり短い期間で集中的に中身の濃い会議を行いたく、今回お集まりいただきました。この後事務局から会議に向けた方針等を細かく説明させていただきますが、全体で3回程度の会議と聞いておりますのでよろしく願いいたします。

第3期に向けて、皆さまからは忌憚のないご意見を頂戴し、計画に反映させていきたいと考えております。

また、前回もお願いいたしましたが、皆さまの知人・ご友人などで一緒に人口減少問題に対する取り組みなどの課題について議論に加わっていただける方がいらっしやいましたらご紹介いただき、この会をさらに活発な議論の場としていただければ幸いと考えております。よろしく願いいたします。

### 3 議長あいさつ（中島啓介議長）

皆さんこんばんは。本日の会議では皆さまから基本目標についてご意見をいただき、それを3回の会議の中でブラッシュアップしていくという進め方をしたいと考えております。是非とも活発な意見交換をよろしくお願い致します。

### 4 議事

議事（1）大月市の目指すべき理想像

（進行：中島啓介議長）

それでは、議事に入ります。「議事（1）大月市の目指すべき理想像」についてです。第3期総合戦略策定に向けて、目指すべき理想像や具体的に何に取り組んでいくべきかなど、皆さまのお考えをお話していただければと思います。

最初に小林市長の理想像についてお話しいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

（小林信保市長）

今年策定した第8次総合計画では、基本理念に「信頼と協働のまちづくり」、まちづくりの将来像に「ひとと自然をいかし、希望のもてる未来をみんなで実現していくまち 大月」を掲げております。これには、「住民みんなで信頼し合い、各々の長所を活かしてまちづくりを進めていきましょう」という思いとともに、「大月で新しいことが起きたり、新しいことを興す人が増えたりすることで持続可能かつ未来に希望が持てるまちになるのではないか」という考えがあります。

では、このような思いをどのような政策や施策にしていくのかについて、総合戦略の基本方針である①地方に仕事をつくる、②人の流れをつくる、③結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④魅力的な地域をつくる、というのを交えながら話させていただきます。

まず①地方に仕事をつくるについてですが、最優先課題であると思っております。現在も企業支援を行っておりますが、これからは特に人手不足解消のための人材確保の取り組みが必要になってくると考えます。例えば、地元に戻らずに日本でずっと仕事を続けたいという意識をお持ちの外国人の方々も人材確保に資すると考えております。また、最近では新たにeスポーツに関する取り組みを進め、情報発信にも力を入れています。なぜeスポーツなのかというと興味関心のある人や競技人口が増加しており、市場規模も急成長を遂げているからです。大月市にもプロゲーマー育成を行っている企業があるとともに、今ある施設や環境の中でも進めていくことができるため、非常に大きな可能性を秘めていると思っております。

②人の流れをつくるについては、東京から近い距離に位置しているため実現できる可能性が高いと考えております。実際に多くの外国人の方々に大月市を訪れてもらえておりますし、今度はいかに大月市内に取り込んでいくのかを検討していかなければならないと思っております。そして、そのきっかけとしてeスポーツが重要な役割を果たしていくことを期待しております。また、登山客に対しても大月市内でお金を落としてもらいもしくは宿泊してもらいには、どのようなアプローチをすれば良いのかも検討していく必要があると思っております。

③結婚・出産・子育ての希望をかなえるためには、晩婚化をなんとかすることが最も効果があると考えております。

④魅力的な地域をつくるためには、みらい協議会で議論してくださっているふるさと教育も1つの要素となると思っております。子どもたちに全力で何かに取り組んでもらったり、チャレンジしてもらったりする中で成功体験をしてもらい、最終的に大月への愛着が芽生えて「帰ってこよう」、「ふるさと納税しよう」などという意識に繋がることもあると思います。以上のことからふるさと教育は魅力的な地域をつくるうえで、非常に大切なものであると考えております。

(白川太委員)

私は健康というテーマが大月市に合うと思います。まず身体的な健康に関しては、医療機器の特区内に採用されていることを活かすべきだと思います。例えば、医療機器と通信デジタルの活用によって僻地に住むお年寄りの見守りや健康管理、リハビリを可能にしたり、そのような事業を展開しようとしているスタートアップ企

業を呼び込んだりすることができると思います。

次に心の健康に関しては、子どもからお年寄りまで楽しいことが発想できるまちななればよいなと思います。例えば、教育とeスポーツを結び付ければ、子どもたちに楽しく学んでもらうことができると思います。

また、ヘルスケアツーリズムを展開してインバウンド客の滞在時間を延ばしたりお金を落としてもらったり、都留市にある健康科学大学と連携して生徒に研究してもらったりアイデアを出してもらったりというのも面白いのではないかと思います。健康というテーマにすることで、みんなと一緒に方向を向きながら進めることができると思います。

(事務局：杉本課長)

人口減少問題については、ふるさと教育を進めていくしかないと思っています。子どもの頃に成功体験をして、自分の存在意義を通してきた人の方が大月に帰ってきているという実感があることから、ふるさと教育は重要だと思います。

今回第3期総合戦略の4つの基本目標を立てるのに先立ち、第8次総合計画では①安心して子どもを産み、子育てに喜びを実感できるまち、②持続可能な産業が育つまち、③心地よいコミュニティが育まれるまち、という3つの重点事項を定めております。しかし、これでは抽象的すぎるため、具体的な取り組みのテーマとして趣味が良いと思いました。山登りや溪流釣りなど大月でしかできない趣味に興味のある人を呼び込み、繰り返し訪問や滞在をしてもらって関係人口になってもらうことが重要だと思います。また、関係人口を増やすためにスタートアップ企業に浅利のサテライトオフィスを活用してもらうことも必要だと思います。スタートアップ企業の方々は「社会課題に取り組みたい」という思いを持っているようなので、実際に地域に入ってもらって交流を通して課題解決に繋げてもらうとともに、関係人口となっただけであれば良いなと思います。

また、これからは第一次産業が再び脚光を浴びることになると考えます。大月市の第一次産業従事者は人口の1%もいませんでしたが、ふるさと納税などで流通構造が変化したり、収入を得やすい仕組みができたりしているため、最近では少しずつ増えつつあると感じています。人口が減ったことを逆転に取ると、農地が増やせるということになりますし、第一次産業で大月を興そうとしてくれている人もいることから第一次産業も重要視する必要があると思います。

(事務局：石丸)

大月が目指すべき理想像について、1つの目標に対して様々な分野の人がそこを目指して取り組んでいくことが大事だと思います。大月市の強みは自然であると思います。大月の水や緑を大切にすることを教育に取り入れたり、子ども達に自然を大切に活動に参加してもらったり、企業もこの強みなら活用しやすいのではないかと思います。

人口が増加する要因は、ショッピングモールやアウトレット、大きな分譲地ができることだと思いますが、大月の地形では実現が難しいため、現状を受け入れて今ある水や緑を大切にし、自然に振り切ることが必要であると考えます。

(竹下文仁委員)

SWOT分析を用いて大月市強み・弱み・機会・脅威を私なりに整理してみました。まず強みは首都圏に近い、交通の便が良い、自然が豊か、大月市民は良い人が多い、製造業が盛んというところであると思っています。一方、弱みは他の地域よりも人口減少率が高く、平地や商業施設、飲食店、宿泊施設が少ない、周辺地域と比べて知名度が低い、車がないと生活が不便というのが弱みだと考えています。機会は大月駅にインバウンド客が多数訪れていること、猿橋や桂川、都留高校があることだと思っています。脅威は将来、人口減少によって安定した財源の確保ができなくなり、行政サービスの維持が難しくなる可能性があることだと思っています

強みについては、特急の停車駅であることやインターチェンジがあること、自然豊かであることを活かして、観光産業をもっと伸ばすことができるのではないかと考えています。弱みについては、人口減少率が他の地域より高いというのは、生活の利便性が関係しているのではないかと考えています。商業施設や飲食店の数が少ないことによって買いたいものがすぐ買えなかったり、利用したいときに利用できなかったり、車がないと移動が不便というところで人口減少が進行してしまっていると分析します。

故に、人口減少を緩やかにさせるためには、今いる住民の生活利便性を高める、今ある地域産業を守る、持続可能な観光資源を創造していくことが必要だと考えます。そして、大月市が目指す未来は、今いる住民の方々が生活の利便性が高いことや豊かな自然を実感できるようになれば良いと思います。まずは今住んでいる人が離れていかないようにすることを考えてから地元以外の人に対して、自然豊かな地域であるという認知をしてもらうことや、リピーターやファンになってもらうことが大事だと思います。さらに、尖った施策を打ち出して大月市をブランド化していくことも必要だと思います。

(白川恵子委員)

私は③結婚・出産・子育ての希望をかなえる、を1番に考えたいです。子育て支援をしている人たちの話を聞くとやりたいことができなくなっていたり、事務的なところが煩雑化していたりということで悩んでいるそうです。これが解決に向かうとともにもっと地域の人達が子育て支援がしやすい環境になって、地域で子どもを育てていけるまちになればいいなと考えています。

そして、①地方に仕事をつくる、についても今住んでいる住民が地域の問題を取り上げ、仕事として興すことが重要だと考えています。先程の子育て支援についても、ボランティアではなく仕事として携わる人が増えるようになれば、地域の中でお金が回る仕組みができると思います。企業を誘致することも大事ですが、それよりは地域の中でお金が回る仕組みがあったり、住民1人1人に地域での役割があったりする方が、魅力的な地域づくりにも繋がると考えます。

(山口隆太郎副議長)

20代から40代の若い世代の移住者は、これまでとの生活に変化を求めて移住する方が多いです。その点でeスポーツを進めていくことは、変化を受け入れる土

地という印象を与えることができるためすごく良いなと思いました。

一方で若い世代の移住者からは、「入口が広くて出口が狭いのが最初に見えると入りにくい。」という声も聞かれました。若者は結婚や出産、子育てなどでライフステージが変わると、地域を離れてしまう可能性があります。ここで離れてしまうのを食い止めようとするのが通常の見方であったと思うのですが、今は離れにくい地域であるとそもそも転入しようと思わなくなってしまうそうです。つまり、「入口が広くて出口も広い」状況が求められているということになります。これでは何のために受け入れるかわからないという議論もあるかと思いますが、関係人口として残ってくれたら良いのかなと思います。若い移住者に対して、快く受け入れるが、変化があったときは喜んで送り出すというスタンスを取ることで、「開かれた地域」や「自分の変化を受け入れてくれた地域」という印象を与えることができ、関係人口になってくれるのではないかと思います。

(中島啓介議長)

私は大月から出て行ってしまう人たちを何とかしたい、若者に大月を選んでもらいたいのですが、それには仕事という問題があると思っています。経験上、大学卒業後に4月から大月で就職する人の就職先は、大月市役所か消防署か山陽精工さんしかないです。新卒の子を採用する市内企業が増えれば良いなと思っています。また、短大生や都留高生など貴重な外から来てくれた若者が大月に留まってくれるような政策があれば良いなとも思います。

また、通り過ぎてしまうインバウンド客や、登ってすぐに帰ってしまう登山客を引き留めなければいけないと思います。そのためには、商業施設の魅力を上げる必要があると思います。例えば、大月駅周辺に商業施設が並んでプチ都会のようになれば、それを目的に来てくれる人や駅の外に出てくれるインバウンド客が増えるとともに、若い人も暮らしやすそうと思ってくれるのではないかと考えました。

(事務局：上條リーダー)

桑原委員からご意見をまとめた文面をいただきましたので、代理で発表させていただきます。まず、大月市の目指したい姿として「若者で溢れる大月市」を掲げていただいております。

具体的なご意見としては、まず企業誘致が必要であるというご意見を頂いております。雇用の創出ができなければ、移住者も含めて若い年齢層が県外へ流出してしまうため、働く場所の確保が必要であるとのことでした。特に、商業施設が少ないので店舗の誘致や、子どもを連れて食べに行けるような飲食店がもう少しあると良いとのことでした。

2つ目に、「食」に関する事業者への援助が必要であるというご意見を頂いております。「人がいる以上、【食】はなくなる。」という視点から、農業や狩猟に興味のある移住者の方々への一層の支援が必要であるとのことでした。

3つ目に、子育てしやすい環境整備が必要であるというご意見を頂いております。土日に行っている小児科や時間外の小児救急がなく、甲府市や富士吉田市の病院まで運転していかなければならないとなると、移住してきたばかりの方だとなお

さら大変だと思つたため、病院の充実が必須になるだろうということでした。

4つ目に、教育環境の改善が必要であるというご意見を頂いております。山梨県が25人学級を推進しているなか、なぜ猿橋小学校の1年生は32人で1クラスであるのか。16人2クラスにするか、鳥沢小学校が16人1クラスなので統合して2クラスで対応できないのか疑問に思っているとのことでした。2クラスで対応した方が勉強や集団行動など得ることが多いのではないかとのことでした。また、大月は土地が少ないため、廃校になった学校の跡地を有効活用できれば良いのではないかとのご意見を頂きました。

(事務局：杉本課長)

人口減少対策の1つとして未婚化、晩婚化対策を進めていかなければならないと思っています。しかし、多様性や経済環境など社会的背景も相まって、結婚や出産を選択しない若者も存在しているため、進め方が難しいとすることがあります。このことについて、白川恵子委員からご意見賜れば幸いです。

(白川恵子委員)

行政が婚活イベントや結婚相談所などをやっているのをよく目にしますが、それよりは知り合うきっかけをつくる程度の緩やかなもので良いと思います。結婚できない理由として、知り合うきっかけが少ないということ以外にもいくつか不安要素があるからだとは思いますが、とりあえず1人でのいるよりは2人でいた方が楽しい、という雰囲気がつくれるものにすれば良いと考えます。

(小林信保市長)

中島議長に質問です。ご意見の中にあつた大月駅周辺の商業施設というのは、誰向けのどのようなコンセプトの施設を想定していますか。

(中島啓介議長)

仮に大月駅周辺に商業施設ができるとしたら、ワインや日本酒、フルーツなど山梨県中の食が揃う施設になれば良いなと思っています。大月市は山梨県の玄関口であると思っていますので、ここに来れば全てが揃う状況にできればお金を落としてもらえようになるのではないかと考えます。

また、観光客だけではなく地元住民も対象が良いと思います。地元住民も県内各地の美味しいものが揃っていれば足を運ぶと思います。山梨県のアンテナショップみたいな施設になれば最高だと思います。

## 議事(2) 第3期大月市まち・ひち・しごと創生総合戦略策定について

(進行：中島啓介議長)

次に「議事(2) 第3期大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について」です。事務局から説明をお願いします。

(事務局：上條リーダー)

お手元にお配りした資料2をご覧ください。今回の会議の最終目標は、青い線で囲んである「第3期総合戦略の基本目標」を立てていただくことです。そのために

先程、国が示している基本的な4つの目標について意見を出していただきました。

今度は、どのようなところに力を入れていくべきか具体的にご意見をいただくために、資料1にある作業手順①から③の作業に取り組んでいただきたいと思います。「このようなことに取り組んだ方が良い」というご意見をお手元にある10枚の付箋にご記入いただき、4つの基本目標もしくはいくつかの目標に被っていても構いませんので分類していただきたいと思います。それを整理してまとめていき、最終的には移住政策や定住促進助成金のメニューについてもご意見をいただくというような会議にしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 【作業開始】

(中島啓介議長)

竹下委員が仰っていた「人が良い」ということについて、私も学校の先生から「大月の子は本当にいい子ばかりだ。」という話を聞いたことがあります。大月の良い面だと思います。

(事務局：石丸)

人口が少ないメリットについて考えた結果、資源の節約や環境の保護など「自然」にたどり着くと思いました。人口減少を逆手に取った、振り切った施策を考えられないかなと思いました。

(事務局：上條リーダー)

桑原委員のご意見にあった、鳥沢小学校が16人という少人数であることを逆手に取ると、手厚い教育をしているという捉え方もできるのかもしれないと思いました。マイナスをプラスに置き換えた取り組みや情報発信も必要だと思います。

(中島啓介議長)

平和通りやさつき通りで開催されている外飲みに行ってみたいとずっと思っているのですが、どのような雰囲気なのでしょうか。

(事務局：上條リーダー)

飲み場ではありますが、子どもを連れてご飯を食べに来ているご家族の方々も見受けられます。また、回数を重ねるごとに新しいお店が加わっていたり、参加人数が増えたりして盛り上がりを見せておりますし、このように定期的に開催するだけでも人が集まる機会が増えて良いのかなと思えます。

前回のさつき通りでの外飲みでは短大生が手伝いをしてくれて、商店街の方々から大変助かったというお話を聞きましたし、短大生からしてもご飯を食べられるお店を知ってもらうきっかけや、中には自分でお店を開きたいと思うきっかけになった人もいますかと思えます。このような新たな交流から次に繋がる部分もあると思えますので、定期的に若者が集えるようなイベントは非常に大事だと考えます。

### 【作業終了】

(事務局：上條リーダー)

今回出していただいたご意見は、一旦事務局で預らせていただいて、次回までに4つの基本目標に分けさせていただきます。そして、次回は事務局でまとめたものについてご意見を頂きたいと思いますので、よろしくお願いします。

### 議事(3) その他

(進行：中島啓介議長)

次に「議事(3) その他」について、委員の皆様から何かありますか。

【議事・質問・意見等】 なし

事務局から「大月仕事人」について説明をお願いします。

(事務局：福嶋)

今年度も大月仕事人の情報発信事業を行います。大まかな流れとしては、8月の会議で大月仕事人の選定および確定を行い、10月に取材する学生のグループを決め、11月と12月で取材と記事作成を行って、広報の2月から4月号で掲載を予定しております。

つきましては、次回会議までに大月仕事人の候補を挙げていただきたく思います。また、その際に取材の許可も取っていただきたいです。よろしくお願いします。

## 5 閉会